

令和5年度 重点目標達成のための行動計画（アクションプラン）

学校教育目標「豊かな心を持ち、創造性と実践力をもとに未来を切り拓く子供の育成」

- **自分と社会のために学びを生かす子供** (目標数値)
 - ・学校の授業が楽しいと感じる。 70%以上
 - ・自ら求めて学ぼうとしている。 60%以上
 - ・学年ごとに決められた時間を意識し、家庭学習に取り組んでいる。 60%以上
 - **思いやりがあり自立した子供**
 - ・自分から進んで、友達や先生、家族、地域の人に挨拶をしている。 70%以上
 - ・自分にはよいところがあると思う。 60%以上
 - ・委員会や当番活動等、日々の生活で誰かのために役立っていると感じている。 60%以上
 - **心身ともに健やかな子供**
 - ・生活スタンダードを守り、メディアをコントロールして、健康的な生活を送ろうとしている。 60%以上
 - ・危険を予測し、常に安全な生活を心掛けている。 60%以上
- * 目標数値は、児童生徒の自己評価における「そう思う（4段階評価の最上位）」の割合を示す。

前年度

過去3年間は、「豊かな心を持ち、創造性と実践力をもとに未来を切り拓く子供の育成」を重点目標として取り組んできた。コロナ禍の中でも、できる範囲で異学年が交流する行事や活動を設定したり、9年間を見通した学習・生活スタンダードを設定したりするなど、義務教育学校ならではの教育活動に取り組んできた。

その結果、仲間や異学年との活動を楽しみ感じたり、進んで挨拶をしたりする子供たちが増えており、子供たちの表情からも明るさと自信を感じる事ができた。しかし自己評価の数値を見ると、学年が上がるにつれて自己肯定感が低くなる事が明らかになった。これは、様々な取組や活動を行っても、効果的な振り返りの場や手立てがなく、子供たちに自分自身のよさや変容、成長を自覚させることができていないからではないかと考える。

そこで今年度は、知・徳・体の三本柱の全てにおいて、効果的な振り返りの場の設定を重視し、自己有用感を育み、自己肯定感を高められるように努める。そして、学校や家庭生活の中で、自ら求めて学ぶ子供、自他の存在感を実感しながら大切にしている子供、自ら健康・安全を心掛ける子供、「国吉プライド」をもって自信をもって生きようとする子供の育成を目指していきたい。

行動Ⅰ

- **自分と社会のために学びを生かす子供を目指して**
 - ① 主体的・協働的に課題を解決する授業づくり
 - ② 子供が自分の考えを深め広げたり、表現したりすることのできる学習過程の工夫
 - ③ 学習スタンダードに決められた時間を意識して、自ら求めて取り組む家庭学習の推進

- **思いやりがあり自立した子供を目指して**
 - ① 児童生徒会での挨拶運動の推進
 - ② 共感的な人間関係を育成する場の設定
 - ・SSTや対人関係プログラム等を活用した自己理解・他者理解の場の工夫（年6回実施）
 - ・学習、運動会、児童生徒会、部活動等の異学年交流活動

- **心身ともに健やかな子供を目指して**
 - ① 「メディアコントロール週間」から健康的な生活へ意識を高める指導の工夫
 - ② 自ら進んで安全に過ごすための取組の工夫

効果的な振り返りの場の工夫

中間評価

- **中間評価**
 - ・アンケート形式による、児童生徒評価・保護者評価・教員評価を行う。
 - ・アクションプラン3部会の活動内容を部会ごとに中間評価し、改善する。
 - ・アンケート結果やアクションプランに関わるデータを分析し考察する。さらに、対策を練り、職員会議に提案する。
 - ・分析結果及び対策を職員会議で検討し、プランの見直しや具体的な改善策を検討する。
- **公開について**
 - ・取組や達成状況、課題、今後の取組等をHP、学校運営協議会等で公開する。

* 中間評価結果を受けて、具体的な取組や達成目標を見直し、検討する。

年度末評価

- **年度末評価**
 - ・3部会において、年度末評価結果の分析を行う。また、分析結果を基に、次年度に向けて対策を練り、職員会議で検討する。
- **公開について**
 - ・取組や達成状況、課題、今後の取組等をHP、学校運営協議会等で公開する。

次

・各種調査やアンケート結果の分析を基に、次年度目指すべき方向を明確にし、重点目標を設定する。

